

中国太郎の発掘日記

島根県埋蔵文化財調査センター
TEL0852-36-8608
江の川改修発掘調査事務所
TEL0855-52-7195

島根県埋蔵文化財調査センターからのお知らせです



6月から開始した江の川河川改修事業にともなう発掘調査も約2ヶ月が経ちました。梅雨も明け、夏本番といった天候の中発掘調査を行っています。本号では、次第に明らかになりつつある遺跡の様子をご紹介します。

もりはらかみ の はら 森原上ノ原遺跡（江津市松川町八神）

現在、調査区全体を平面的に掘り下げ、人々が一定期間生活していた古い時代の地表面を探しているところです。現在までの調査では、江の川が氾濫した際に運ばれたと考えられる砂の層が調査区の広い範囲に厚く堆積していることがわかりました。また、調査区の東側では固くしまった層が土手状に盛り上がっており、その頂部では大小の石や完全な形に近い古墳時代の土器が多く出土しました。一方で、建物跡などの生活の痕跡は現在のところ見つかっていません。

今後の調査では江の川の氾濫と人々の生活がどのように関係していたのかなど、より詳細な遺跡の様子を明らかにしていきます。

おねがい

調査中の遺跡は深く掘り下げた部分があり、大変危険です。事故防止のため調査区内に立ち入らないようお願い致します。

見学を希望される方は上記発掘調査事務所までご連絡ください。



発掘調査箇所の位置

～発掘調査トピックス～



調査区全体の写真です。奥に現在の江の川が流れています。写真左側（西側）は白い砂、右側（東側）は黒くしまった砂が見えています。白い砂は江の川が氾濫した際に堆積したものと考えられ、近世以前の遺物が出土します。



黒い砂の上では大小さまざまな石と完全な形の土器が比較的近い位置で出土しています。何らかのお祭りに使用されたものかもしれません。



現在、完全な形に近い土器が 10 点ほどあり、そのほとんどが黒い砂が堆積する東側で出土しました。これらは古墳時代中期から平安時代（5 世紀から 10 世紀）ごろのものと考えられます。